

The Pharmaceutical Society of Japan
日本薬学会第 125 年会 ランチョンセミナー

日時:平成 17 年 3 月 31 日(木) 12:30 ~ 13:30

会場:東京ビッグサイト 1 階 C 会場



創薬ゲノムにおける受託 *in situ* Hybridization サービス

演者:大久保和央 ジェノスタッフ株式会社 シニアリサーチャー

in situ Hybridization (ISH)は、mRNA の局在を知る上で非常に有効な手法ですが職人的手法を伴います。その工程は、動物の解剖から始まり、プローブの設計、切片薄切、染色条件検討、染色結果の判断など、非常に長期の実験になるだけでなく、各工程に多くのノウハウや知識も必要になります。また各工程における組織中の mRNA は壊れやすく、検出感度に大きく影響致します。弊社カスタムサービスは、これら ISH に関わる一連の作業を全てお引き受けし、独自の手法で感度良く検出できます。

また以下のサービスに対応可能な技術も有しております。

1. ISH 受託サービス
2. ISH 用プローブ作製及び、ポジコンプローブ販売
3. 組織切片作製サービス及び、販売
4. 免疫組織細胞化学染色、その他組織染色受託サービス
5. 出張解剖サービス
6. ヒト組織でのデータ解析



ペプチドアレイによる Kinase / Phosphatase 基質特異性解析

— Ready-to-use Tools for Enzyme Profiling

and High-Throughput Screening —

演者:糸原 正典 フナコシ株式会社 開発部

Kinase や Phosphatase などの酵素と基質間の相互作用を解析することは、創薬研究の初期段階における、ターゲットバリデーションとして有用です。

JPT Peptide Technologies GmbH(ドイツ ベルリン)では、合成ペプチドを用いてさまざまな解析ツールを開発しています。同社の 1,000 種類以上の合成ペプチドをスポットしたペプチドアレイは多様な用途で利用できます。今回は、同社の技術を利用した、Kinase、Phosphatase 等の解析について、説明します。

共催

日本薬学会第 125 年会
フナコシ株式会社

 フナコシ